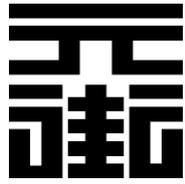


150年間の思いを一つに 元街っ子
~つなげよう! まちへ 世界へ 未来へ~

令和5年11月30日



横浜市立元街小学校



令和5年度 学校だより 12月号

Tel 681-7810 Fax 662-5842

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motomachi/>

未来へ繋げていこう

校長 工藤雅彦

11月25日(土)、本年度の創立150周年記念事業や教育活動の集大成ともいえる、子どもたちの「150周年をお祝いする集会」と、大人たちの「式典・祝賀会」を無事終えることができました。多くの方々のご協力やご支援を受け、尊い素敵な時間を過ごせたことに改めて感謝申し上げます。

これまでの創立150周年記念事業の教育活動によって、母校への愛校心が深くなったと感じています。それに伴い様々な場面で子どもたちの主体性・協調性などを引き出す成長の機会となりました。午前中体育館で行われた集会では、子どもたちは150周年キャラクター「もまち」を装飾やゲームに活用したり、内容や方法を工夫したクイズを出したりして、自分たちで企画運営し楽しみました。5・6年生が復活を願った、先輩たちの残したスクールソング「そよかぜ」は、全校の皆が好きになりました。「しましまアートプロジェクト」を通し憧れをもったので、卒業生で画家の大野愛さんが記念ムービーに登場すると、歓声が上がりました。また、ゲスト出演してくれた港中学校吹奏楽部の演奏は本当に素晴らしく、会場にいる皆が笑顔になりました。圧巻だったのは吹奏楽部の演奏に合わせた校歌の大合唱です。元気で明るいバンドの音や姿に、小学生の歌声もいつもより明るく元気で、高学年のアルトパートも力強く、卒業生を含む中学生たちが、子どもたちの持っている力を引き出してくれました。集会最後の6年生運営委員長の挨拶では「先輩たちに憧れ、それを目指し、自分たちも努力し、後輩たちに伝え、さらに受け継いでほしい。それこそが学校の歴史や伝統であると実感できた。この思いを生かし151年目、さらに未来へ繋いでいこう。」と凛とした姿で述べていました。

午後のローズホテルで行われた記念式典・祝賀会でも、本校の卒業生たちが大活躍しました。アトラクションのピアニストの榎本響さん、ヴァイオリニストの土屋優喜さんも卒業生。素敵な演奏を披露していただきました。乾杯のご発声をいただいた杉島和三郎様、お祝いの言葉をいただいた鈴木敏夫様も卒業生。記念品のバッグを作っていたきたムラの社長さんも卒業生。記念事業の音楽劇をしていた音楽劇団「まっかなホント」にも卒業生がいました。本校の新旧卒業生たちに会を盛り上げ、支えていただきました。集会で6年生の述べたことはまさにその通りだと感じます。

創立130周年記念誌から探した当時の6年生の「未来の元街小に向けて」や「私にとっての元街小とは」についての言葉には、「子供たちが主役として生き活きと学校生活を送ってほしい。」「笑顔いっぱい、みんなが仲間で低学年・高学年がたくさんふれあってほしい。」「自分たちが主人公となり自分たちで計画する小さな社会。計画したことを実行し自分に自信が持てる場所。」「家ではできないことを学ぶ場所。クラスや学年のひとと交流し、集団生活の大切さや苦労がわかる場所。」などが綴られていました。これらの思いや願いは、今も本校が目指す元街っ子の姿、元街小の姿です。卒業生たちが残した思いは現代に受け継がれています。学校はきっと未来をつくる場所なのだろうとも感じさせてくれました。そして、様々な人々の関わりや繋がりによって輝きを増しているように感じます。今後とも元街小学校をどうぞよろしく願いいたします。